



本ばかり読んでいて少しも外で遊ばないと言われる子供も少しはいますが、この子はちつとも本を読まない親を嘆かせる子供のほうがはるかに多いと思います。小学生くらいの子供で学校の図書室や近くの公立の図書館から次々に本を借りてきて、かなりのスピードで読破していく者もいれば、教科書以外の本は読んだことがないという子供もいます。

歴史・伝記・文学・冒険物語、生物の話、天文学の話など多方面にわたって読書を続けていく子供は、やはり将来が楽しみな子供と言っているでしょう。文学を読んで内容を理解する力、これを読解力と言いますが、読解力はすべての学習の基礎になるもので、しかも学年が上になるにつれて重要度が増してきます。ですから、小学生のころに読書の習慣が定着するかどうかは非常に大切な問題ということになります。それだけに本を

読ませたい、本の好きな子供にしたいと思っている親は多いのです。

そのためにはどうしたらいいでしょうか。ある父親は新聞の児童向け図書の紹介記事をいつも注意して、これだと思う本があると自分で買って子供に与え、読むことを勧めています。世界文学全集などを子供部屋に並べて、「読みなさい。読みなさい」と言っている親もいます。しかし実際には、このような方法では読書は好きになりま

読書の習慣と父親

たくま たけと
詫摩 武俊

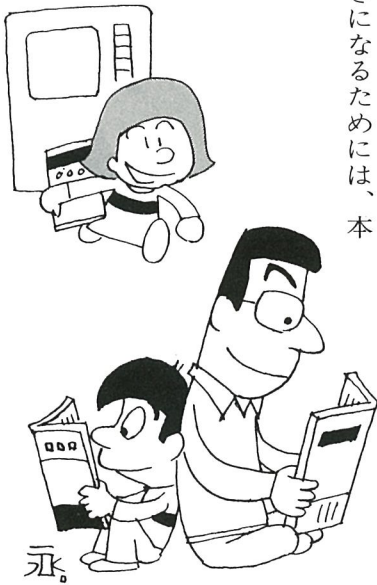
せん。いまの子供たちは、テレビはよく見てもマンガ以外の本にはあまり関心を向けないのです。

子供は本に親しむきっかけをつかむことが多いのです。
(東京都立大学教授・心理学)

読書好きになるためには、本

を読むことの楽しさが体得されていなくてはなりません。親自身が週刊誌ではない本を読み、時々はその本の内容を家庭の話題にしていることが大切です。

家庭教育の特徴は親の何気ない態度や習慣が子供に模倣されるといふところにあります。読書についてもこのことは当てはまります。親が自分の子供の時に読んだ本の話をしたり、親が読書をしている姿を見ることがよって



石油ストーブ

正しく使って暖かい冬を

本格的な寒い季節になると、どの家庭でもストーブなどの暖房器具を使うことが多くなります。

なかでも、石油ストーブは操作が簡単なうえに経済的ということでもよく使われます。しかし、取り扱い方をひとつ間違えると屋内で使うだけに、思わぬ大火につながります。

そこで、石油ストーブによる火災を防ぐため、次のような点に注意しましょう。

◎置き場所

ふすまやカーテンのように燃えやすい物のそばには絶対に置かないこと。

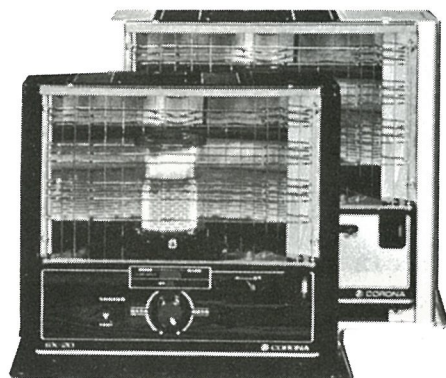
また、周りはいつても整理整頓しておく。

◎点火する前

給油口やカートリッジ式タンクのふたが完全に締まっているかなど、確認してから火をつける。傾くと火の消える装置(対震自動消火装置)などの点検と整備は専門家に頼む。

◎火のついているとき

使用中は、長い時間そばを離れないようにする。部屋を留守にするときは、火の消えて



いることを必ず確認する。燃料の補給は火を消してからにする。

◎灯油の保管

必要以上に買いだめしない。熱に弱いポリタンクは使わず、なるべく金属缶に入れて、日の当たらない壁ぎわに置く。日の当たらない場所に置くときは、タンク板やベニヤ板でおおう。アパートなどのベランダに灯油を置くときは、以上のことを特に心掛けてください。このような、日常的な配慮が石油ストーブによる火災を防ぎます。正しい取り扱いで、安全で暖かい冬を過ごしたいものです。